

審議会等の会議結果報告

1 会議名	第24回津市子ども・子育て会議
2 開催日時	令和元年7月2日(火)午後6時00分から午後8時30分まで
3 開催場所	津市役所本庁舎4回「庁議室」
4 出席した者の氏名	<p>(津市子ども・子育て会議委員)</p> <p>飯田明美、市川真理子、市野伸幸、内田洋子、大野由佳、小河美乃、駒田聡子、田口鉄久、田中嘉久、内藤直樹、橋川恵介、堀本浩史</p> <p>(事務局)</p> <p>こども政策担当理事 福森稔 こども政策担当参事 鎌田光昭 子育て推進課長 水野浩哉 子育て推進課保育所担当副参事兼特定教育・保育施設等担当副参事 橋爪祐子 子育て推進課調整・子育て推進担当主幹 田口芳裕 子育て推進課保育担当主幹 小林泰子 子育て推進課子育て推進担当副主幹 福島奈津 子育て推進課子育て推進担当主査 米本孝子 こども支援課長 山口尚利 健康づくり課保健指導担当副参事兼中央保健センター所長 梅林ひとみ 教育長 倉田幸則 教育委員会事務局学校教育・人権教育担当理事 田中寛 教育委員会事務局教育推進担当参事兼学校教育課長 片岡長作 教育委員会事務局学校教育課幼児教育課程担当副参事 瀬古口あゆみ 教育委員会事務局青少年・公民館事業担当参事 青山友理子 教育委員会事務局生涯学習課青少年担当副参事 小島広之</p>
5 内容	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 子ども・子育て支援事業計画について</p> <p>(2) 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みについて</p> <p>3 その他</p>
6 公開又は非公開	公開
7 傍聴者の数	0人
8 担当	<p>健康福祉部 子育て推進課 子育て推進担当</p> <p>電話番号 (059) 229-3390</p> <p>E-mail 229-3167@city.tsu.lg.jp</p>

第24回津市子ども・子育て会議 議事概要

1 開会

- ◆事務局(田口)が開会宣言
- ◆事務局(田口)が委員の交代を報告
- ◆事務局(田口)が欠席委員を紹介
- ◆事務局(田口)が会議の成立を報告
 - ・出席者12名(延着1名)、欠席者8名、津市子ども・子育て会議条例第6条第2項の規定により成立
- ◆事務局(田口)が事務局職員の異動を紹介
- ◆事務局(田口)が資料の確認

2 議事

- ◆田口会長が会議の公開を報告
 - ・津市情報公開条例第22条及び第23条の規定に基づき、公開審議とする

(1) 第2期津市子ども・子育て支援事業計画について

- ◆事務局(水野)が資料説明 (資料1、参考資料1、参考資料2)

(田中委員)

第1期の計画を策定するに当たり、次世代育成支援行動計画の内容と、それに基づき実施されてきた事業の評価等について事務局から説明を受けた。同様に、第2期の策定に当たっても、第1期の計画に基づき、どのような事業が実施され、それに対する評価はどうであったかなどの説明があれば、基本理念を考えるうえで参考になると思う。スケジュール案を見ると、本日のこの会議で基本理念を決めてしまわないと間に合わないような状況に見受けられるが、そこはもう少し丁寧に進めていくべきではないだろうか。また、教育大綱や教育振興ビジョンといった関連する計画の内容についてもお示しいただければ、何か繋げていくものがあるかもしれない。

(事務局 倉田)

現行の教育大綱は今年度で対象期間が終わることから、今年度中に新しい大綱を策定する予定である。教育大綱は市長が定めるものであり、策定のベースとなるのは、市長と教育委員会で構成し、市長が主宰する総合教育会議であるが、それとは別に、津市PTA連合会や校長会、園長会、教職員の代表など、各教育関連団体との懇談の場を順次設け、そこで上がってきた意見を吸い上げて、案を作っていくという流れになる。めどとしては、年明けぐらいに案が固まるイメージなので、大綱の内容を子ども・子育て支援事業計画に反映するのは、スケジュール的に難しいと思う。

(事務局 鎌田)

第1期の計画を策定したときは、当時の委員の皆様たいへん長い時間をかけて基本理念を考えていただき、さらに計画策定の姿勢として、子どもへの視点、保護者への視点、地域・社会への視

点という大きな3つの視点を打ち立て、4つの基本目標に推進施策という枝葉をつけて作り上げていただいた。その評価については、これから関連部局において一つ一つの推進事業ごとにおこなっていく予定である。第1期計画では、大きなテーマの一つに教育・保育の提供があり、待機児童の解消や良質な生育環境の整備を目指して、これまで取り組みを進めてきたところである。待機児童については、津市では年度当初の待機児童はゼロであるが、全員が希望する保育所に入れているわけではなく、希望とのミスマッチという意味での待機者は見られる。さらに、年度途中になると、昨年の10月1日時点で83名の待機児童が出てきている。国は当初、平成29年度の待機児童解消を目指す加速化プランという計画を掲げ、それに向けて、すべての市町村が全力で取り組みを進めてきたが、29年度は思いのほか保育ニーズが多く、解消は果たせなかった。そして、現在は子育て安心プランにおいて、令和2年度での待機児童の解消を目指しているところである。こういった待機児童への対応という部分に関して、津市は待機児童がゼロという形ではあるけれど、保護者の皆様に安心いただけるような教育・保育の提供体制が確保できているかと言うと、まだまだ十分ではないというのが事務局における評価である。また、昨今、子どもへの痛ましい事件が大きく取り上げられているが、子どもにとって安全で良好な生育環境が保たれるよう、引き続き、関係機関との連携を図りつつ、充実した取り組みを進めていく必要がある。妊娠期からの支援ということで、子育て支援拠点事業や母子保健事業の充実も必要であるし、就学前の保育の対策が必要であるように、学童期においては、学童保育あるいは最近言われている放課後子育てプランについて、しっかりと保護者のニーズを捉えて検討していく必要があるだろうと、評価をしているところである。

(事務局 倉田)

教育分野では、10月から幼児教育・保育の無償化が始まるのに伴い、その影響を見定め、今後の幼稚園のあり方、特に、近年園児数が大きく減少している公立幼稚園のあり方について、津市としての方向性を出していく必要がある。その一方で、放課後児童クラブでは年々利用者が増えており、子ども一人当たりの専用区画面積が基準値の1.65㎡を下回るクラブもいくつか出てきている。これについては、現在、教育委員会において整備計画を策定しているところであるが、例えば一つの放課後児童クラブを分けて、新しくもう一か所クラブを作るとなると、当然どこに作るのかという場所の問題があり、その辺りをどのように進めていくかということが課題としてある。

(堀本委員)

私は、5年前の子ども・子育て会議にも参加していたのだが、「子どもの輝きが未来につながるまち・津」という基本理念は、当時の委員がそれぞれの立場で意見を出し合い、皆で丁寧に作ったという思いがある。特に、「つながる」という言葉には非常にこだわりがあって、地域の人たちと子どもが繋がる、子どもどうしが繋がる、親子で繋がるなど、いろいろなエッセンスがここに詰まっている。皆で一生懸命考えて作ったものなので、これをかなりの部分で踏襲していくのがよいと思う一方で、新しく委員になられた方もいろいろな思いをもってこの会議に参加されていると思うので、その思いを話していただき、新しい目線を加えてほしいとも思う。

(飯田委員)

今、社会は非常に早いスピードで変化しており、子どもたちが大人になる頃には、AIが進化して、今ある職業の半数ぐらいは無くなっているのではないかと言われている。その子どもたちを育てているのが私たちである。目まぐるしく変化する多様化の時代の中で、ぶれずに、自分自身をしっかりと持ち、自分のやりたいことを見つけてしっかりと生きていく、生き抜いていく力がこれか

らは必要であると、子どもたちの姿を見ながら常々感じているところである。ちょうど今、手元に津市教育振興ビジョンがある。平成30年4月に策定されたもので、目標年度は2022年度となっている。この中で、教育目標①として「夢や希望を持ち続け、生き抜いていく力を育む人づくり」とあり、その中の「基本施策1 幼児教育の充実」では、「学びにつながる幼児教育の推進」、「教員の資質向上」、「小学校教育への円滑な接続」、「幼児期の豊かな心を育む教育の推進」の4つの施策が示されている。私は、この「生き抜いていく力」という言葉が大事だと思っている。5年後、10年後を見据えて子どもたちを育てていく中で、生きる力はもちろん大事なことはあるが、それ以上に生き抜くことが必要になってくるのではないだろうか。そういう思いを含めて、第1期計画の基本目標1の2つめの推進施策「自己肯定感を育み、生きる力を培う教育の推進」の文言をもう一歩力強い言葉で表現してはどうかと思う。

(内田委員)

先ほど事務局から説明のあった福祉分野や教育分野の課題については、細かい部分で具体的に反映していただくとして、理念の部分は大変よく考えられたものだと思う。資料1の3ページに、当時の委員の皆さんがディスカッションしている様子が紹介されているが、そのときのご苦勞がこの文面に反映されており、私は第2期もこのままの形で進めてもよいのではないかと思う。

(市野委員)

基本目標2の5つめの推進施策「ひとり親家庭への支援の充実」について、スクールカウンセラーとして学校現場を見ていると、昨今、母子家庭や父子家庭が増えたと感じる。また、1つめの推進施策に「障がいのある子どもへの支援」とあるが、例えば、体は女の子だが心は男の子でスカートが履けないなど、昔もあったのかもしれないが、このようなことがどんどん学校現場では出てきている。外国籍の子どもが文化の違いからトラブルになることも多い。「支援が必要な子どもへの支援」や「支援が必要な家庭への支援」の中に含まれているとは思いますが、外国籍の子どもや家庭に関する文言もどこかに入れていただくようご検討をお願いします。

(田口会長)

データなどによると、約1割がひとり親家庭という状況になっている。また、障がいの範囲を今は広く捉えて、いわゆる発達障がいなども含める形になってきている。とりわけ、市野委員が関わっていらっしゃるところにおいては、外国籍の子どもが多い状況があるようである。それらが具体的なところに含まれているかどうかあまり見えてこないなので、表記の仕方を工夫する必要がある。LGBTの問題も結構な数があるように思う。具体的に取り上げるかどうかは別として、そういう問題があるということ認識しなくてはいけない。今は相当周知されるようになってきているが、5年後となればさらに周知されていると思うので、その点も含めなくてはいけないかもしれない。

(小河委員)

私は、仕事で18歳や20歳ぐらいの子と関わることが多い。その中で思うことは、小・中学校や高校で自分自身を大事に思うようにと言われて育ってきたからか、自分を大事に思いすぎて、相手に対する思いやりがない、相手の気持ちが分からない、相手が自分のことを受け入れてくれないと自分の価値が分からなくなってしまうなど、自分本位な子どもが非常に多いように思う。また、私には、特別支援学級に通う小学校1年生の子どもがいるのだが、去年の夏の時点では特別支援学級に通うことが分かっていたのに、入学するまで何の説明もなかったのも、本当にうちの子がそういう学級できちんと支援を受けられるのだろうか、とても不安だった。安心して子どもを育てら

れるというところでは、そういうことも汲み取っていただきたい。

(田口会長)

子ども・子育て支援事業計画は、どのような条件を整えていくのか、どのような受け入れ体制を作り出していくのかという話を中心になっているけれども、5年を経て6年めに入ろうとする計画であれば、内容的な充実にも踏み込んでいく必要がある。どこまでできるかは分からないが、そういう努力は必要だろうと感じている。

(大野委員)

子どもたちを見ていると、大人の世界に振り回されている様子がとても気になる。大人がもっと変わっていかねばいけない。大人は、子どもが育っていくことを待つ時間を大切にすべきである。あまりにも目まぐるしく社会が変化する中で、子どもたちの居場所、居場所というよりは心の拠りどころが無くなっていると強く感じる。地域の中で見守り隊の方々が一生懸命子どもたちを見守っていただいているが、その多くは70歳代である。では、次の世代の50歳代や60歳代が見守り隊をするかと言うと、なかなか手が挙がってこない。まずは大人の意識を育成していく必要があると感じている。

(市川委員)

子どもも保護者も、誰かに自分の気持ちを分かっしてほしいという思いを持っている。保護者は、仕事や家庭のこと、子育てのことなどで悩んでいるときに、保育教諭やほかの保護者に話を聞いてもらうことで心が少し軽くなるし、子どももトラブルがあったときなどに、保育教諭や友だちに自分の気持ちを分かっただけで心が軽くなるということがあるので、人と人が繋がり、分かり合って、心に寄り添っていくことが大事だと感じる。私も日頃から人と人の繋がりをとても大事にしている、園長として研修などの場で話をする際に「皆で少しずつ繋がっていこう」という話をしたり、園で保護者どうしが繋がる場を意図的に設けたりしている。保護者が安心して子育てをおこない、子どもたちが自分の気持ちを表して、他の友だちとも繋がっていくような社会を作っていくためには、この「つながる」という言葉を基本理念の中に大事に入れていきたい。基本目標はとてもよく網羅されており、全体的によく考えて作ってあるというのが私の感想である。ただ、先ほど言われた外国に繋がる子どものことなど、だんだん変わっていく社会に対して新たに文言を付け加えたほうがよいこともあるので、皆で意見を出し合って考えていけたらと思う。

(田口会長)

子育てをしている中で孤立している人や、不安な気持ちを自分の中に押し込めて解消できていない人が、いろいろな所と繋がる中で気持ちが整っていくことはよくある。そういう意味で、人と人が繋がることはとても大事なことであり、保育に従事する者が繋げる役割を担うということは大事な視点である。

(2) 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みの算出について

◆事務局(水野)が資料説明 (資料2)

(橋川委員)

先ほどから話が出ている「つながる」ということに関して、共働きが多くなってきている中で、子どもと親が繋がる時間が少なくなっているように思うので、「保護者への視点」か、基本目

標1の3つめの推進施策「次世代の親の育成」にもっとフィーチャーして、親子がもっと寄り添う時間を作っていく必要があると感じた。また、最近、きょうだいの数が少なかったり、地域における異学年との交流が少なくなってきたりという状況の中で、そういうことを一つ一つ深掘りしていくと、もっと深まるのではないかと思う。

(田口会長)

家族が子どもを中心にゆったりと過ごす時間が必要であるというご指摘は、とても重要な視点である。子ども・子育て会議での協議は、どのように制度を充実させていくかという視点がどうしても強くなってしまいが、例えば働く人たちの条件がもっと良くなって、子育てに時間を割けるような状況が生まれてくることも大事であり、親の働き方の問題にもアプローチしていけるような施策が必要である。また、異年齢の繋がりをどのような形で作り出していくかも大事な視点であり、やはり学校や園などに委ねられているところがあるのではないかと思う。

(大野委員)

今のような話を伺っていると、異年齢の子どもどうしの遊びがある学童保育の大切さというものが見えてくる。働く女性が増えるのに伴い、母親が子育てに関わる時間がどうしても少なくなってしまう。特に公設民営の学童保育では、指導員の給料の算出から書類の提出などをすべて保護者が役員となっておこなわなければならないので、母親たちの負担が大きい。保護者の負担を少しでも減らすために、市で統一できる部分は統一してもらえればと思う。

(堀本委員)

私どもは社会福祉法人で児童館と放課後児童クラブを運営しているが、「うちの放課後児童クラブを運営してくれないか」という保護者からの問い合わせが何件か寄せられている。普段から会計ソフトを使っているわけではない一般の保護者が人を雇って、給料を払う計算まですると、それは相当な労力がかかると思う。ある程度の統一をしながら、保護者の負担を軽減できるようなシステムが必要である。

(事務局 倉田)

学童保育の運営者や指導員との懇談会の中で、お困りの声を以前から耳にしている。保護者の負担をごっそり軽減することはなかなか難しいが、対策としては、平成29年度に運営のためのマニュアルを作ったり、昨年度は会計を円滑におこなうための会計マニュアルを作ったりしている。さらに、会計等に関する助言ができる職員を学童保育の担当に配置するなど、行政側の体制強化も図っており、少しでも負担を軽減できるよう対策を進めているところである。

(事務局 小島)

確かに、保護者は仕事をしている人ばかりなので、夜間や休日などに学童保育の運営をしていただくことは大変な負担になっていると思われる。少しでもアシストができるようにと、例えば、会計に関わる研修や労務管理に関わる研修など、研修会を年間4回開催している。ちょうど今度の日曜日もたくさんの保護者に集まっていただく機会を設けており、その中で悩みごとなどをどんどん出していただき、行政にできることがあったら一つでも二つでもやっ払いこうという姿勢で取り組んでいる。

(田口会長)

津市は、学童保育が大変早い時期からスタートしており、しかも保護者の手による運営ということで、子どものことを本当によく考えたうえでの運営がなされてきた歴史がある。市町によっては、

営業的なところが入り込んでいる所もあるが、安易にそういうところに委ねていくのではなくて、事務局からの説明にあったようなサポートの強化が大事だと思う。

(小河委員)

資料2の8ページを見ると、0歳児の数が減っていることが見て取れる。乳児家庭全戸訪問事業というのがあるが、私は訪問を拒否したことがある。子育てや妊娠をしているときは些細なことでも不安に思うものなので、この事業自体は非常によいとは思いますが、それまでの関係性が全くない状態でいきなり悩みを打ち明けるのは難しい。もう少し誰もが受け入れやすい形で相談ができて、きちんと秘密を守ってくれるような場所があれば、0歳児が減少していく中でも行き届いた支援ができるのではないかと思う。

(市野委員)

スクールカウンセラーをしていると、母親からだけではなく、子どもの祖父母からの相談も実は多い。おじいちゃん、おばあちゃんを上手に使えば、子どもの心の安定に繋がるし、母親も安心して働けるので、基本目標3の4つめの推進施策「子ども・子育てに対する相談・支援の体制の充実」の中に含まれているとは思いますが、シルバー世代の活躍についても一言触れていただきたい。

(橋川委員)

祖父母からの相談内容はどのようなものがあるのか、非常に興味がある。

(市野委員)

守秘義務があるので具体的には言えないが、ひとり親となった自分の娘のことを心配して、孫が片親で本当にうまく育つのだろうかといった相談が多い。私は継続カウンセリングを勧めており、「今度はお茶持って来てください」と言えば、おじいちゃんも一緒にきて、気さくに話してくれる。話をすることは悩みを離すと、私はいつも言っているのだが、ほとんど雑談に近い形でもすっきりして帰られる。

(田中委員)

人口減は非常に残念なことである。基本理念に力強さであったり、ジェンダーや外国籍の子どもへ対応であったりという細かいものが付け加わっていくことによって、津市の魅力が増して、人口が今の数字よりも1人でも2人でもプラスになっていけばと思う。そういう意味では、第2期もこの基本理念を踏襲することになったとしても、同じ言葉ではあるが、第1期とは随分意味が違うものになっているように思う。時間がない中でも、自分自身の意見を出しながら、丁寧に良いものを作っていくことは、会議に参加する喜びにもなっている。

(駒田副会長)

学童保育に関しては、保護者が運営するということが大原則としてあるので、学童保育を利用する側がそのことをまず理解して受け入れることが必要である。今は全国一律で6年生まで預かってもらうことができるようになったが、私が学童保育に子どもを預けていた当時は、学童保育を利用できるのは3年生までというところがほとんどだった。そうした中でも、津市では4年生以上も預かってもらうことができ、本当にありがたかったと感謝している。行政がいろいろなサポートをしていただけるのは大変ありがたいことだと思うので、引き続きアドバイス等をよろしく願います。また、乳児家庭全戸訪問でいきなり人が来て困ったという話や、シルバー世代の話などを聞いて一つ思ったのは、社会教育が大事であるということである。例えば、中央公民館のベビーマッサージなどは非常に人気で参加者が多く、いろいろな人が繋がる場になっている。そういう意味では、

これからは社会教育が要になって、すべてのことが集約されていくように思う。また、私や田口会長は保育士や幼稚園教諭を育てる立場にいるのだが、今の学生たちは生活体験や遊びの経験が少なく、養成校でありながら、4年間ある中で十分育て切れていない状態のまま、現場に送り出してしまっている。保育者は、子育て世代を繋げる核としての役割も担うので、現任者のさらなる質の向上、キャリアアップが図られるよう、現任者研修の充実が必要である。「つなげる」というキーワードで見たときに、社会教育や現任者研修が大事になってくると思うので、ぜひお願いしたい。これから各部署の反省点が出てくるということなので、それを見ながら、またこれから良い方向に持っていけたらと思う。

(小河委員)

先日、教育委員会から特別支援教育の就学奨励費に関する書類が届いた。入学時の学用品の購入金額について確認する書類だったが、ランドセルや体操服などは3月にすべて買い揃えていて、私は家計簿などをつけていないのでレシートはすべて捨てており、6月の時点で購入金額が確認できるものをつけて提出してくださいと言われても難しい状況である。既に分かっている事業であれば、例えば、1月になった時点でお知らせいただければ、レシートを残しておくこともできると思うので、そのようにお願いしたい。また、先日、別件で支所に書類を提出に行った際に、どなたかの個人情報に関わる書類がほかの人の目に触れる形で置かれていた。取り扱いに十分注意していただきたい。

(田口会長)

本日は、第2期の計画を立てるに当たって、今までの実績等を振り返りながら、そして様々な課題を提起していただきながら、新たな方向性を出すための話し合いを深めていただいた。何がどうという形でまとめることはできないが、ここで出た意見を拾い上げていただきながら、次期の計画に反映していただけるよう事務局でご努力をお願いしたい。

3 その他

(事務局 福森)

まず基本理念は、第1期の計画を策定するに当たり、基本的には今後も継続していく理念と考えていましたので、初めに決めていただいた基本的な理念を5年ごとに変えていくのもどうだろうかという意見もあり、事務局から第1期のものを踏襲するものとして提案した。4つの基本目標については、第1期のときも当時の課題を見ながら作成していただいたので、これはやはり少しずつ見直す必要があると思っている。今は4つの基本目標となっているが、5つにしたほうがよいという案が出てくるかもしれない。それは、会議の中で話し合いをして決めていけばよいと考える。基本的には、シルバー世代の話は保護者の視点の中に入ってくるし、放課後児童クラブの運営のあり方やワーク・ライフ・バランスは社会・地域への視点の中に入ってくる話だと思う。その中で、市がおこなっている事業のどれに当てはまるかということも今後お示しさせていただきたいと思っているが、ただ、それにはまだしばらく時間がかかる。整理ができ次第、8月にもう一度会議を開きたいと思うので、よろしく願います。

(事務局 水野)

基本目標等に関するご意見をお聞きするアンケートを後日メールで送らせていただくので、スケジュールがタイトで申し訳ないが、ご返送をお願いする。

(市野委員)

仕事のシフトを組む関係で、なるべく早く次回の会議の日程調整をしていただけると助かる。

(事務局 鎌田)

資料1の5ページに、漠然とではあるが、今後の会議の予定を入れさせていただいている。なるべく早め早めにスケジュールを調整させていただくので、ご負担をおかけすることになるがよろしく願います。

(田口会長)

大変長時間にわたり、熱心なご協議ありがとうございます。これをもって終了とする。